令和５年度大学・附属学校園連携事業推進経費　成果報告書

所属名	附属天王寺中学校
研究課題名	附属天王寺中学校での探究的課題解決学習の指導改善に向けた取組み
研究課題概要	大阪教育大学附属天王寺中学校では、生徒一人ひとりが研究テーマを設定し、希望する分野ごとに学年・学級の枠を越えたゼミでの探究的課題解決学習（自由研究）に取組んでいる。ゼミでは、研究テーマに近い専門性を持った教員の指導に加え、上級生が下級生に助言するなど、生徒によるリーダーシップが発揮される場面も多くある。一方、向井（2023）が当校で行った調査から、多くの生徒が自由研究活動に対して高い満足度を示しているものの、中には満足度が低く、自主的・自律的に学ぶ姿勢に課題がある生徒もいることが分かった。 その解決策として、校内に生徒が自由に利用でき、生徒が希望した書籍を置いた図書スペース「探究のもり」を設置する新たな学習環境の構築を試みた。設置期間は、自由研究の取組みが行われる2023年度末のゼミ指導の1カ月半前（2月1日～3月22日）とした。探究のもりは、期間限定での設置とすることで、生徒の飽きがこず、特別感を出すことができ、多くの生徒が利用すると想定した。3月上旬、1～3年生を対象に、①探究のもりの利用に関する調査、②探究のもりの設置に関する調査、③自由研究活動の満足度調査をアンケート形式で実施した（匿名による任意回答）。有効回答者数は337名であった。 ①について、6割以上の生徒は探究のもりにあまり興味を示さず、利用していないことが分かった。しかし、利用頻度が高い生徒は、「自分の知識が深まった感じがした」「レポートの書き方など、まとめるときのためになった」「色々なジャンルの本があって、自分の研究と違うものも読んで楽しかった」など、設置書籍を積極的に活用することで、自ら研究のスキルを磨いたり、知識の広がりや探究の楽しさを感じたりと、主体的・自律的な探究的課題解決学習に取組む一助となっていることが分かった。このような図書スペースでの学びは、ゼミでの学びとも共通しているものであった。 ②について、「設置回数」「設置場所」「本の種類」「設備」の各属性に対して三水準を設定し、得られたデータを用いてコンジョイント分析を行った。その結果、設置回数が四属性の中で最も重要視され、期間限定の図書スペースではなく、常設を希望していることが分かった。設置場所については、廊下や空き教室を希望する生徒が比較的多かった。本の種類については、必ずしも希望する本が仕入れられなくても、生徒の要望に応じた本の設置を望む声が多くあった。設備については全体として重視されていなかった。 ③について、7割以上の生徒が自由研究活動を肯定的に捉えており、「知識・認識の広がり」「他者へ伝える力」「研究のスキル」「他者からの学び」に関して理解を深められたと自己評価していることが分かった。また、重回帰分析の結果、「研究のスキル」「主体性」「研究の楽しさ」の順で、自由研究活動への総合満足度に有意に影響を与えていることが分かった。一方、低満足度生徒が1割程度いることや、自主的・自律的に学ぶ姿勢に課題がある生徒がいることは依然課題である。 設置時期を中心に検討することで探究のもりの利用者が増加し、低満足度生徒を含めた生徒の「研究のスキル」「主体性」「研究の楽しさ」などにおける自己評価が改善される可能性がある。ただし、現状は未利用者が多いため、設置当初は生徒に関心を示してもらうためのさらなる工夫が求められる。
研究課題の構成員（リーダーに※）	田中　真理子（附属天王寺中学校）※ 篠崎　文哉（多文化教育系） 附属天王寺中学校全教員